則天武后外伝

鏡花縁

藤林広超 訳

著者略歴

明治二十一年十二月二十五日生
明治四十四年　三高一部乙卒業
大正三年　京大中国文学科卒業
元真宗大谷派西宗寺住職
元同志社大学教授
元同志社女専講師
（現住所）京都市下京区間之町通
上数珠屋町上ル東側

則天武后外伝　鏡花縁

定価　四二〇〇円

昭和五十五年八月十六日　発行

訳者　藤林広超（ふじばやしこうちょう）

発行者　野間省一

発行所　株式会社　講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一
電話（〇三）九四五―一一一一（大代表）
郵便番号一一二

製作　㈱講談社出版サービスセンター

印刷所　信毎書籍印刷株式会社

製本所　大製株式会社

© K. Fujibayashi 1980, Printed in Japan

はしがき

この小説は、第一回　女魁星北斗垂レ景象ヲ老王母西池賜フ芳筵ヲ から、第一百回　建テ奇勲ヲ節度還レリ朝ニ傳ヘテ大宝ヲ中宗復位ス まで、中国で唯一人の女天子則天武后が登場する章回小説です。それをくだいて訳して、改めて自分なりに七編に分かち、節ごとに小題を付して出来上がったのがこの訳本です。なお完訳ではなく、例えば百人の才女が酒食をする場面など、番号を付けていますから、すぐ分かりますが、その一部しか訳していません。しかし他は完訳に近く、かなり忠実に訳したつもりです。

織錦廻文図は割愛しました。なお一里は、五町一里ぐらいに考えてください。

使用書目

㈠『鏡花縁』
上海五馬路棋盤街西首　亜東図書館
中華民国十二年五月初版
中華民国十四年十二月四版

㈡『鏡花縁』
香港九竜弥敦道七四〇号　中華書局香港分局

千九百六十五年六月香港版

千九百七十四年三月重印

㈢『図像鏡花緣』

光緒乙未上海文盛書局

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

卒壽老人耄訳

則天武后外伝

鏡花縁

目

次

はしがき……1
第一編　百花斉放……13
前書き　15
蟠桃勝会の事　16
花仙麻姑の洞で徹宵碁を打つ事　24
嫦娥の執念武后を百花斉放に走らす事　26
牡丹最後に夜が明けてから行く事　32
百花斉放牡丹ひとり抵抗の事　35
百人の花の仙子が下界に降ろされる事　44
第二編　探花諸国巡り……53
花仙唐小山として嶺南に降生の事　58
唐敖夢神の啓示により探花の旅に出る事　60
東口山　68
唐敖仙品肉芝蹲空草朱草独り占めの事　68
唐敖名花駱紅菓と出逢いの事　79
君子国　88
売買風景でまず度肝を抜かれる事　88
林之洋二大臣からの燕窩で大儲けの事　92
唐敖名花廉錦楓と出逢い親切にする事　103
大人国　110
大官が町を歩くのに足の雲を綾で隠す事　110
労民国　115
聶耳国　116
無腸国　117

犬封国 119
元股国 120
尹元先生と名花第三尹紅萸との出逢いの事 120
毛民国 129
毘騫国 129
無継国 132
深目国 134
黒歯国 135
名花第四盧紫萱第五黎紅薇と出逢いの事 135
九公青くなったり紅くなったりする事 142
盲に道を問うようなものと罵られた事 148
小人国 155
蚤人 156
跂踵国 157
長人国 157
麟鳳山 161
見事な一騎打ちの鳥合戦見物の事 161
名花第六魏紫桜に助けてもらった事 167
白民国 172
えせ文化に唐敖感心していかれる事 172
淑士国 181
林之洋調子に乗って少子を説く事 181
三人酒楼に入って酸っぱい酒を飲む事 187
名花第七司徒斌児と出逢いの事 193
両面国 202
唐敖うしろに回って浩然巾をめくる事 202
名花第八余麗蓉と出逢いの事 205
穿胸国 209
厭火国 210
林之洋ひげ焼かれて若返る事 210
寿麻国 213
結胸国 215
炎火山 216
長臂国 217
翼民国 218
豕喙国 219

伯慮国 220
巫咸国 222
名花第九姚芷馨第十薛衡香と出逢いの事 222
岐舌国 230
九公執念字母図を国王から贈られる事 230
名花第十一枝蘭音と出逢いの事 240
智佳国 249
枝蘭音まずずばりといい中てる事 249
女児国 260
唐多二人女が男、男が女の国見物の事 260
林之洋軟禁されて王妃として飼育の事 265
纏足なって林貴妃入内の事 269
唐敖治水で民衆をアジる事 274
林貴妃王と固めの杯する事 281
唐敖治水に成功して生祠に祀られる事 285
林之洋釈放の事 291
名花第十二陰若花救出の事 296
軒轅国 301
国王の千歳祝寿で各国元首参賀の事 301
林之洋女児王に見付かり真っ紅になる事 306
小蓬莱 313
暴風で小蓬莱に漂着の事 313
唐敖小蓬莱に上陸帰らない事 317

第三編　父を尋ねて……321

武后女子に対する恩旨十二条を降す事 323
武后女試を開くの恩詔を頒つ事 330
唐敖の枕が見付かり小山小蓬莱に行く事 332
聖暦元年八月一日出帆の事 338
百草仙子が小山に霊芝をもってくる事 344
小山君子国で水怪に襲われる事 350

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

船の全員が丈夫国で山精に拉致される事　356
存外早く小蓬萊に着いた事　362
出発後十四五日で父の親書を受け取る事　365
泣紅亭から女魁星が出てくるのに逢う事　371
閨臣父と会えず碑記を写して帰る事　380
駿馬に乗って大嶺を越え日数が短縮した事　388
両面で賊襲に逢い山塞に異変があった事　395
百穀仙子が清腸米をもってきてくれる事　405
黒歯で緇氏と亭亭とが一行に加わる事　410
女試に果して間に合うかという事　421

第四編　長安へ長安へ……427

女試で色めく矢先白猿碑記を持ち去る事　430
海外五人組が出痘のことで気を揉む事　436
痘疹娘（ニアンニアン）娘で紅蕖兄の許嫁宋良箴と会う事　441
県考郡考五十大慶をすまし翌年二月出発の事　445
余承志船で帰国の途上主僕夫婦が相逢う事　452
余承志文隠に十余年ぶり父の血書を渡す事　456
史逸亡き後史述駱承志小瀛洲山に拠る事　462
文府章府から合流一行二十一人になる事　468
武后の厳命で捕われた宋素を奪還する事　470
燕府で四人合流一行二十五人になる事　476
更に四名花が加わり十二名花が揃う事　481
長安着紅文館に入り翌日四十五人になる事　486
瑤釵文書を忘れ緇氏のを間に合わす事　489
武后一日で郡考部試の補欠を許す事　496
礼部尚書卞浜の家系と人柄の事　498
回避組憂さばらしの会の事　503
芸芝紫芝部試補欠の日を当てる事　509
回避組三月二十三日部試補欠を受ける事　513
国舅飛車で迎えにきたが若花帰国を断わる事　516
殿試（一）　521

唐閨臣自己の名字で周朝を認めない事　521
殿　試（二）　527
武后殿元唐閨臣を史幽探に替える事　527
百才女卞府に伺候老師夫妻に挨拶の事　534
武后賄賂を貰って若花を帰国せしめる事　538
唐閨臣「長安送別図」を描く事　542

第五編　卞府招宴……547

卞府招宴　550
四月九日　551
閨臣坐席のことから碑記の話をする事　551
琴の合奏と春扇に書画を書く事　561
紫芝青鈿と東道の賭をする事　570
紫芝賭に勝って翡翠の腕輪手に入れる事　575
紫芝鬥草を偶花に改める事　584
酒令が始まり御旨が下がって流会の事　588
四月十日　597
老師の矢場拝見の事　597
智佳国の人米蘭芬の事　601
青鈿毬ほりで鞋を飛ばす事　605
若花令伯で酒令が始まる事　611
玉芝酒令で罰杯百になる事　618
銀漢浮槎を主題にして各書にまねる事　626
月姉風姨凝翠館に殴り込みの事　629
麻姑百才女に百韻二百句の詩を語る事　635
青鈿天文を虫名とごまかし紫芝やり返す事　643
百花仙景に即して禅機をあらわす事　647
若花合歓の二字で令を収める事　652

第六編　会者定離……657
陰若花三才女を伴って女児国へ帰国の事　659
唐閨臣顔紫綃を伴って仙山に入る事　662
第七編　迷魂陣……667
小瀛洲山に勤王の士集結の事　669
三十四公子八夫人三十五才女旗挙げの事　673
酉　水　関――酒の陣――　677
文苏大酒して身柄を持ち込まれる事　677
紫瓊小蓬萊に飛んで指示を受ける事　684
无　火　関――火の陣――　689
林烈蒸籠とやりあい熱気に打たれ死ぬ事　689
巴　刀　関――色の陣――　694
陽衍歓歓喜喜その好事をなす事　694
才　貝　関――銭の陣――　698
章莊大銭の梯子を登って行く事　698
八夫人の熱禱に答え五大仙助けにくる事　705
武后退位中宗復位の事　712
作者のあとがき　714
解　説……716

作　者……718
関係年表……719
あとがき……722

第一編　百花斉放

前書き

蟠桃勝会の事
花仙麻姑の洞で徹宵碁を打つ事
嫦娥の執念武后を百花斉放に走らす事
牡丹最後に夜が明けてから行く事
百花斉放牡丹ひとり抵抗の事
百人の花の仙子が下界に降ろされる事

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com